

No1

1-1

敬学会賞第四回入選作品

Campus®

NOTEBOOK

Campus notebooks contain the best ruled foolscap suitable for writing.

A 普通横野

世界の音楽家の研究

平成2年
115

岩淵賞

601

阿部宏美

テーマ



目

次

- | | | |
|-----|------------|-----------|
| 1) | テーマ | P 1 |
| 2) | 目次 | P 2 |
| 3) | 研究の動機 | P 3 |
| 4) | 研究の計画 | P 4 |
| 5) | 研究の方法 | P 5 |
| 6) | 研究の実際 | P 6 ~ 82 |
| 7) | 研究のまとめ | P 83 ~ 85 |
| 8) | 参考にした本と資料 | P 86 |
| 9) | おせめに なった方々 | P 87 |
| 10) | 研究の反省 | P 88 |

研究の動機

私は、ピアノを習っていて、大作曲家が作曲した曲を練習するたびに、その作曲家のおいたちや、その曲は、何才ごろの作品かなどを調べてみたいと思っていました。

それに、4年生の時、モーツァルトの研究をして、その時、もっといろいろな、作曲家のことを調べたいと思っていたので、小学校最後の、敬学会研究で、いろいろな作曲家を調べてみたくなりました。そして、調べていく内に、世界のピアノの歴史や、日本音楽と、西洋音楽とのちがいなどに興味を持って、調べたくなったので調べました。また、日本音楽と西洋音楽のちがいは、今、社会で、歴史の勉強としているので、日本の、何時代ごろに、どんな音楽がさかえたかを、西洋のほうの音楽とくらべながら調べたいと思ったので、調べ、世界の作曲家の出身地も調べたくなったので調べました。

研究の計画

研究日	内容	指導者
1 4/25	オリエンテーション・研究の計画	各学級担任
2 5/16	研究の実施	テーマ別
3 6/6	⋮	⋮
4 6/13	⋮	⋮
5 7/11	⋮	⋮
6 7/18	⋮	⋮
7 8/29	⋮	⋮
8 9/12	⋮	⋮
9 9/19	⋮	⋮
9/22	作品提出	
~9/26	テーマ別審査	テーマ別
~10/1	学級別・学年別審査	学級・学年
10/2	総合審査	代表
10 10/3	発表者決定	学年
10/8~10/13	佐藤堂岩瀬賞の発表	係
10/18	発表会準備	係
11 10/19	第44回研究発表会	全職員

調べること

NO1ノ1-H

1. 小学校の教科書の鑑賞曲

① 小学校の鑑賞曲はどんな曲か。

② 調べる鑑賞曲を作曲した人と、その曲について

2. 世界のピアノの歴史

① めずらしいピアノ

② 大作曲家が使ったピアノ

NO2ノ1-H

3. 音楽の歴史年表

〈日本音楽と西洋音楽の
ちがひ〉

4. 古典派音楽の作曲家

5. 世界の作曲家の
出身地

・テーマ～研究の方法＝夏休み前に

・研究の表彰祭 研究のまとめ＝夏休み後に
反省

・参考にした本・資料・お世話になった方々

研究の手なおし＝夏休み後に

研究の方法

調べることの1. 小学校の教科書の鑑賞曲の①は、小学校の音楽の

教科書1年～6年で調べる。②は、本で言聞べたり、自分でその曲を
市立図書館から借りてくる。(家にあった本も)

聞いてみたりする。

調べることの2. 世界のピアノの歴史は、①も②も本と、2

年前に行、た浜松のカワイの工場の資料や、工場を見学した

時に、聞いた話をもとにして書く。

調べることの3. 音楽の歴史年表は、音楽辞典で

調べたり、ピアノの先生に聞いたりする。

調べることの4. 古典派音楽の作曲家は、本や
音楽辞典で調べたり、ピアノの先生に聞いたり
する。

調べることの5. 世界の作曲家の出身地は、

音楽辞典で調べる。

研究のさい

1. 小学校の鑑賞曲 2. 小学校の鑑賞曲は、どんな曲か。

—— 小学校の鑑賞曲 —— ※この曲の中で、調べる曲のまじりに色をぬる

学年 曲	1	2	3	4	5	6
	がぼっと	からうワルツ	ナイチンゲール	がボット	ピアノ五重奏曲 第1番	組曲「パルティータ」 第1番
	くさばえふせ と こいね	あかちゃんやうの こいね	かえるのレバ	ホルン協奏曲	郷土の音楽	アランドール (組曲「パルティータ」) 第2番
	しろくまの じゃんか	メヌエット	メヌエット ト長調	クラリネット ガリバ	ジャマイカン ハンバ	山田耕筈の 歌曲
	きらきらぼし の おはなし	小さな8と	トランペットと3人の イタズラ	いたずら いたずら	滝廉太郎 の歌曲	「アイネ クラビ エ」
	おもちゃの へりた	トルココラシ ン	歌けき じや	きゅうな	ハンカリー 第5番	くるぎのまい
	おどるこねこ	くまさんの ピクニック	ポロネーズ	白鳥	歌けき 「クリヤム」	春の海

わかったこと、どの学年も、鑑賞曲は、6曲である。

2. 調べる鑑賞曲を作曲した人と、その曲について

ポロネーズ

バッハ作曲

音楽の父

♪ バッハ について ♪ Bach (1685~1750) ドイツ

・ バッハは、ドイツのアイゼナハで、代々音楽家の家系の16人兄弟の末子として生まれた。

主な作品として、「オルガン曲」ハンサリアとフーガ「ピアノ曲」(クラビエ)

平均律クラビエ集、イタリア協奏曲

イギリス組曲、フランス組曲「弦楽曲無伴奏

バイオリン曲、無伴奏独奏曲「管弦楽曲」

ブランデンブルク協奏曲、「声楽曲」マタイ受難曲

「ミサ曲」クリスマスオラトリオ、

などがある。

＜ バッハ作曲「ポロネーズ」について ＞

組曲「第2番」ロ短調

※ この頃の組曲は、舞曲をいくつか組み合わせたものである。この曲も、序曲と六つの舞曲でできている。全体は、同じ調によって統一される。

1. 「序曲」 → 2. 「ロンド」 → 3. 「サラバンド」

7. 「バディネリー」

6. 「メヌエット」

5. 「ポロネーズ」

↓
教科書の
鑑賞曲

4. 「ブーレー」

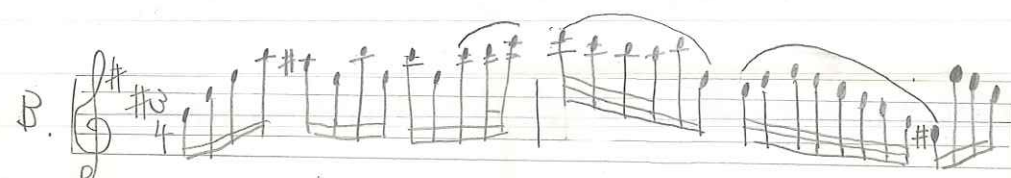
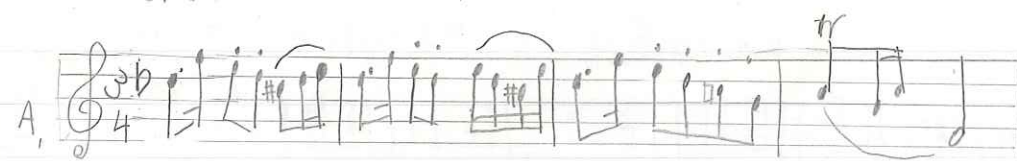
1720年の作品

演奏の形は、フルートと弦楽合奏

5. 「ポロネーズ」 ポーランドの4分の3の舞曲。

A (おそい)、B (はやい)、A (おそい) の形で、B は、フルートと低音の一部である。

Moderato



1日友タイケ作曲(ドイツ)

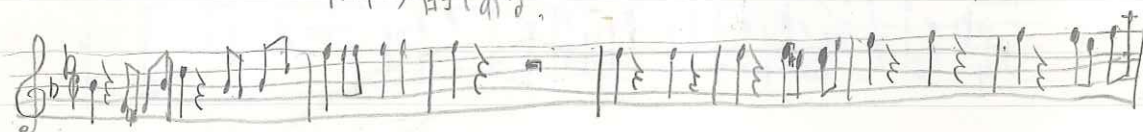
<タイケについて>

タイケは1864年にドイツに生まれた。

長い間ドイツの軍楽隊長をつとめた人である。

<1日友について>

が強いリズムと、堂々たる旋律は、いかにもドイツ的である。



1891年の作品

演奏の形は 吹奏楽

サン＝サーンス作曲(動物の謝肉祭から
百鳥について)

<サン＝サーンスについて>

(1835～1921) フランス

(サン＝サーンスは、パリで
生まれた。)

<組曲、動物の謝肉祭 から、百鳥について>

謝肉祭は、古くから、西洋に伝わるお祭りの一つであるが、

この曲は、いろいろな動物が、お祭りのように、楽しく遊んで
いる姿をかいたものである。

1. 序奏と獅子王の行進 (ピアノ2台と弦楽合奏) 堂々と行進する。
2. おんどりとめんびり (クラリネット・ピアノ・バイオリン合奏)
3. りば (2台のピアノ) 元気に野原をとい回っている感じがする。
4. かめ (ピアノと弦楽合奏)
5. 象 (ピアノとダブルベース) 太い足で、おもしろいワルツを踊っているみたい。
6. カンガルー (ピアノ2台) とびはねるようすを表わしている。

7. 水族館 (フルート・チェロ・ピアノ・弦楽合奏)
8. 耳の長い登場人物 (バイリン合奏) らばともいわれる。
9. 森の奥のかしう (ピアノ2台・クラリネット)
10. 大きな鳥かご (ピアノ2台・フルート・弦楽合奏)
11. ピアニスト (ピアノ2台・弦楽合奏) 音階練習の様子だけである。

12. イヒ石 (ピアノ2台・クラリネット・木琴・弦楽合奏)

「死の舞蹈」フランス民謡、ロッシニーの旋律など

鑑賞曲 いろいろはいっている、音楽のイヒ石

13. 白鳥 (ピアノ2台・チェロ) 白鳥が湖の上で泳いでいるようにすが表わされている。チェロの独奏曲としても親しまれている。

14. 終曲 (ピアノ2台・フルート・クラリネット・木琴・弦楽合奏)

いままでにでてきた動物たちが、つぎつぎに現われて愉快におどる。

1886年の作品 演奏の形は室内管弦楽

ピアノ五重奏曲「ます」 第4楽章 シューベルト作曲

＜^{歌曲王}シューベルトについて＞ (1797~1828) オーストリア

シューベルトは、郊外リヒテンタールに生まれた。

主な作品として、「歌曲」 子も歌、アベマリア

「室内楽」弦楽四重奏曲(死にた)

「その他」楽興の時、幻想曲(エスプリ人)

軍隊行進曲 などがある。

＜ピアノ五重奏曲、長調「ます」について＞

この曲は、第4楽章に、自作の歌曲「ます」の旋律を主題とする変奏曲を持ったために、「ます」とよばれている。普通のピアノ五重奏曲と異なり、ピアノ、バイオリン、ビオラ、チェロ、ダブルベースという編成である。(普通は、バイオリン2 ダブルベースなし)

第1楽章 アレグロ ビバーチェ 長調 4分の4拍子
ソナタ形式

第2楽章 アンダンテ 長調 4分の2拍子

第3楽章 アレスト 長調 4分の3拍子 スケルツォ

⑥ 第4楽章 アンダンティーノ 長調 4分の2拍子 変奏曲
鑑賞曲
有名な「ます」の主題と五つの変奏とアレグレットのコーダから成っている。まず主題が弦楽器で奏され、ピアノがはなやかに活躍する。第1変奏、ピアノの主題の第2変奏、低音の主題をピアノでかざる第3変奏、短調の第4変奏、チェロの主題の第5変奏となり、コーダは、原曲の歌曲の伴奏形が用いられ、新鮮な感じで曲を終れる。

第5楽章 アレグロジスト 長調 4分の2拍子
自由なソナタ形式

1819年の作品

演奏の形 ピアノ五重奏

ハンガリー舞曲「第5番」 嬰短調 ブラームス作曲

《ブラームスについて》 ブラームス (1833~1897) ドイツ

ドイツ大の最後をかざるブラームスは、ハンブルクに生まれた。

主な作品として、交響曲4曲、悲劇的序曲

ハンガリー舞曲、バタリコ協奏曲

ピアノ協奏曲2曲 ピアノ曲

独唱曲などがある。

《ハンガリー舞曲「第5番」について》

ブラームスは、ハンガリーのジプシー音楽に興味をもつ。

ジプシー音楽の美しい旋律を生かして21曲におよぶ舞曲を

作曲した。そのなかでも5番、6番は特に親しまれてよく演

奏される。もともとは、ピアノで演奏されるものであるが、管

弦楽などに編曲されて演奏されることが多い。

1860年の作品
演奏の形は、ピアノ練習曲

組曲「ペールギュント」 (第1 第2) ^{樂曲} グリーグ作曲

♪ グリーグについて ♪ グリーグ(1843~1907) ノルウェー

1 ノルウェーの港町ベルゲンに生まれる。

おもな作品として、ピアノのための抒情小品集「歌曲」白鳥などがある。

♪ 組曲「ペールギュント」 ♪ について
(第1) 第2

イブセンの詩劇に作曲したものから、各四曲をえらんで組曲

にしたもので、内容は、冒険好きなペールが、嵐によって

巨万の富を失い、白髪の老婦となった昔の夢人リルベーク

によって安息を得るという物語

第一組曲、 1 朝の気分

2 オーゼの死

3 アニトラの踊り

4 山の魔王の宮殿にて

第二組曲

1 花嫁の略奪

2 アラビアの踊り

3 ペールギュントの帰郷

4 リルベークの歌

1874~5年の作品

演奏の形は、管弦楽

ファランドール (組曲の女第2から) ビゼー作曲

〈ビゼー について〉 ビゼー (1838~1875) フランス

ビゼーは パリで生まれた。

おもな作品として 歌劇、真珠の王、美しきペルトの娘 などがある。

〈組曲 アルルの女〉について

フランスの劇作家ドーデーの戯曲「アルルの女」の劇音楽として作曲されたものである。この劇のためにビゼーは、27曲の音楽を作曲した。その中で4曲をとって音楽会用の組曲にしたのが、第一組曲である。後にかれの友人ガロー(音楽院教授)は、さらに4曲を選んで第二組曲をまとめた。

◎ 古典派時代にはいくつかの舞曲を集めて集曲することが多かったが、この時代になると舞曲に関係なく、自由に

選曲して組曲としている。

第一組曲 ビゼー自身が選び編曲した。

1. 前奏曲

2. ヌヌエット

3. アダージェット

4. 鐘

第二組曲 友人のガローが選び編曲した。

1. 牧歌

2. 間奏曲

3. ヌヌエット

資料書の → 4. ファランドール ……村人が踊るファランドールの舞曲と鑑賞曲

1872年の作品

演奏の形は管弦楽

「王の行進」の旋律が組み合わされはなはなしくくり広げられる。

アイネ・クライネ・ナハトムジーク

モーツァルト作曲

＜モーツァルトについて＞ 「音楽の神童」といわれるモーツァルトは、
アルプスのふもとの町、ザルツブルグに
生まれた。

おもな作品として、「交響曲」39番、40番、41番（ジュピター）

「歌劇」魔笛、ドン・ジョバンニ

「その他」協奏曲、室内楽、ピアノリタ

バイオリンリタ、レクイエム（ミサ）など

がある。

＜セレナーデ ト長音階 クスス＞について

アイネ・クライネ・ナハトムジーク

18世紀後半のヨーロッパでは貴族たちがいろいろなところ集まり
楽しくパーティをひらくことが流行し、その時にこのような社
交音楽が用いられていた。この種の音楽は、器楽曲で

きているが、どれも 気がるに楽しめるものばかりであり、サロン
風でやわらかなムードをもち、したしみやすい音楽である。

モーツァルトは、この種の音楽を40曲あまり作曲したが、その
うちで最も有名なのがこのト長調のセレナーデで、

「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」とも呼ばれている。

この曲は、モーツァルトが16歳のときに作曲したもので、

優雅で気品があり、またその中にも明るく楽しい表情

がにじみでている。曲は、四楽章からなりたっており、その

四楽章は小さい交響曲のような形式でできている。

第1楽章 テンポの速いリタ形式で、明るく生気に

あふれた第一主題と、やさしく、美しい第二主題が

対照的におりこまれている。

第2楽章（ロマンス）甘く美しい旋律を主としたゆっくりした曲
で、ロマンスの名にふさわしい。

第3楽章 (メヌエット) 明るく美しいリズムとメロディーをもつ

複合三部形式の曲で、メヌエットの
主題とトリオの部分が互いにひ
きたてられている。

第4楽章

軽快なはぎれのよい曲で、いきいきと
躍動する生命力が感じられる。ロン
ド風な速い曲である。

1787年の作品

演奏の形 弦楽合奏

箏曲「春の海」

宮城道雄作曲

この曲は、昭和5年、宮中で行なわれた新年の歌会の
ために作曲したもので、瀬戸内海を旅行したときの、
春の海の、のどかなようすを描いている。曲は、箏と尺八の二重奏
に作られているが、後に日本をおとすれたフランスの女流
バイオリニストのシュメーガ、尺八の部分をバイオリンでひくよ
うに編曲してから、バイオリンでも盛んに演奏されるように
なった。曲は、次の3つの部分からできている。

1 のどかな春の海へ

・ゆっくりした速度で、おだやかな感じを表わし
ている。舟に打ちせる波の音や、かもめの声など、
のどかな情景を描いている

2. 漁村の人々のからっぽな動き

はやい速度に変わる。からっぽな木曾拍子や、舟歌、
のどかな春の気分が巧みにおりこまれており、はな
やかにくりひろげられている。

3. のどかな春の海へ

はじめの部分にもじる。ゆるやかなリズムがくり返
され、落ちついておわる。

1929年(昭和4年)の作品

演奏の形 箏と尺八 (バイオリンとフルートで
奏することもある)

2. 世界のピアノの歴史 ①めずらしいピアノ

19世紀の諸種変形ピアノ

— アップライト・ピアノ — のほいまり

ピアノの発祥は、その前身楽器であるクラヴィコード、チェン
バロが、すでに1400年頃からあったのだから、600年以上の歴史
をもつ楽器である。その当初のクラヴィコードやチェンバロも、弦を
水平に張る。今日のグランド・ピアノ形の木の枠の中に収められ蓋を
立てれば、翼の形になる形だった。弦の音高は、その長さに比例するから
枠組みはこの形になりざるを得ない。この原則は、今日のグランド
ピアノでも変わっていない。原則的には平型の翼型か、四角レーブ
ル型に造られていたのである。

他方、バロックの時代から、好みの目的に従って堅形や思い思いの形の
変った大小の楽器が次々に生産されるようになったがそれが19世紀
のピアノ時代になると、続々と多様性を増してくる。記録にも残ってい
ない形の変ったピアノの試作品も加えると、数百種類にも及ぶ

だろう。その目標の主流は、一般家庭向き場所をとりなり
アップライト型への道にあり、もっと手軽な小型ピアノの開拓で
あった。

アップライト型は、ピアノとしての性能の点では、打鍵後のハ
ンマーが垂直に落ちるグランド型より、分が悪いけれど、実用
の点では、有難いタイプである庶民の住宅事情に合わせても
有利だし、価格が安いから普及率も高く、常に生産台数
も時代と共に増してきた。しかし、それも今日の四角いまと
まった形に完成されるまでに、長い過渡期と試作
期間があったのである。

1 めずらしいピアノ

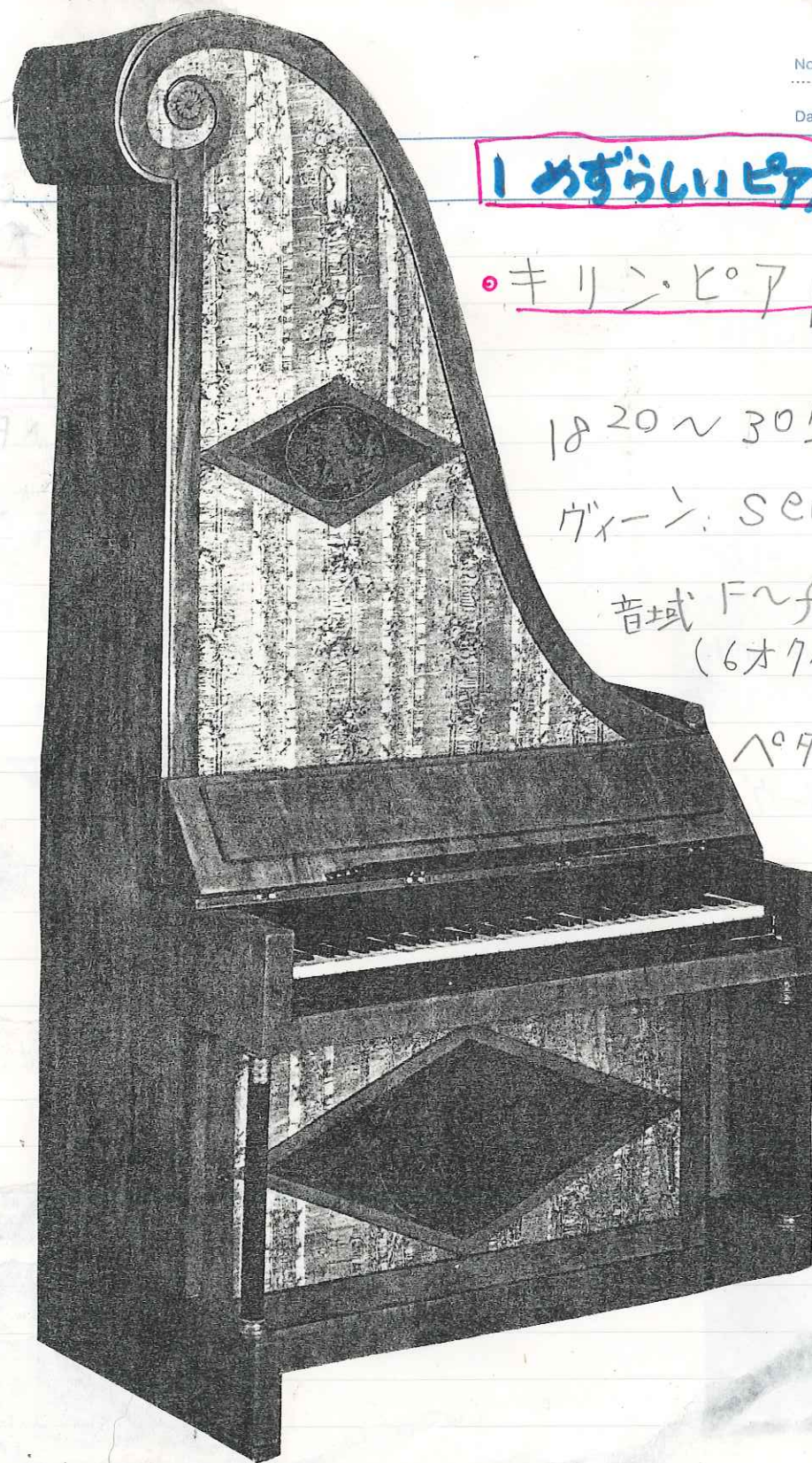
・キリン・ピアノ

1820～30年頃

グーテン・Seuffert製

音域 F～f⁴
(6オクターヴ)

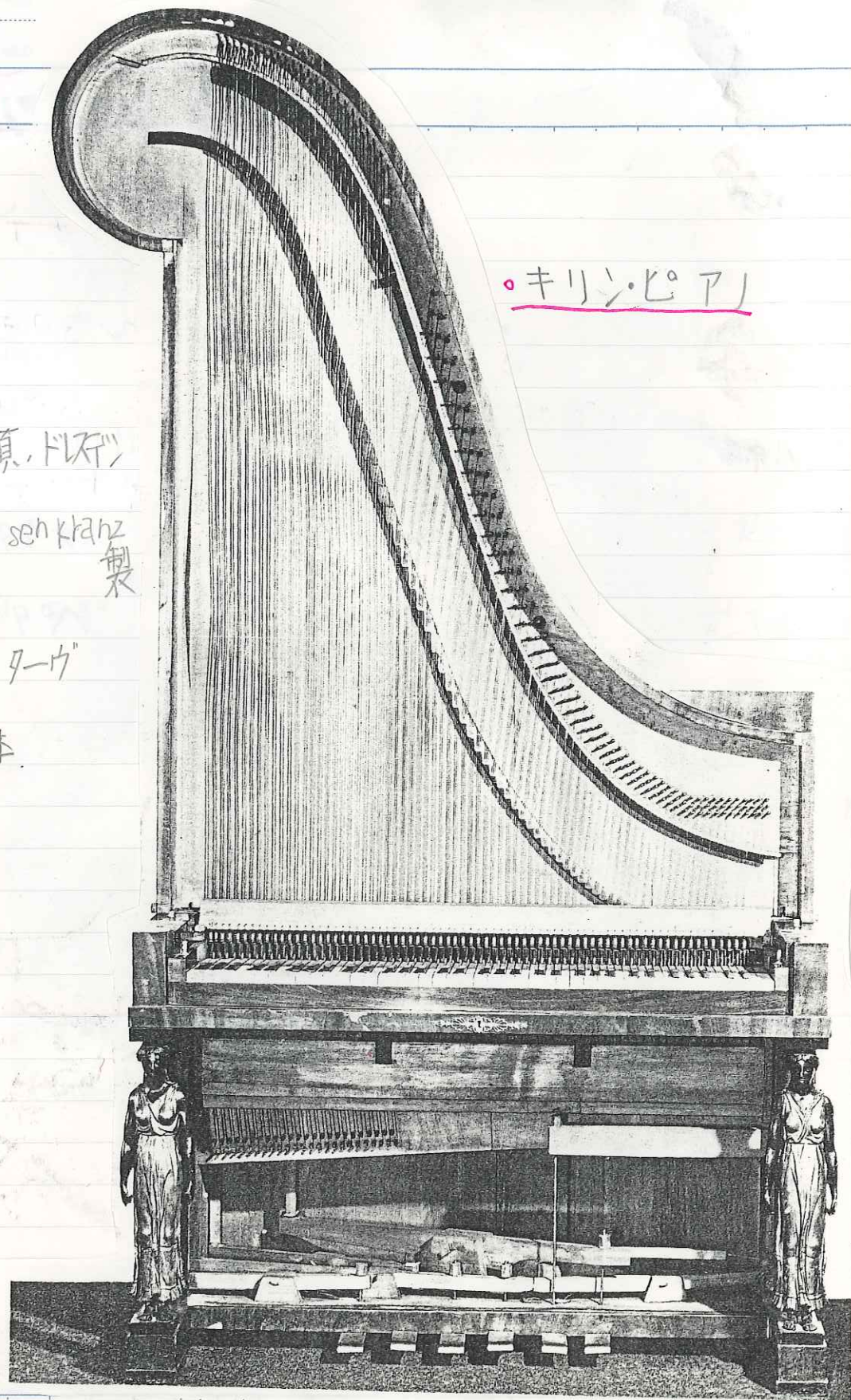
ペダル2本



1815年頃、ドレスデン
Ernst Rosenkranz 製

音域6オクターヴ

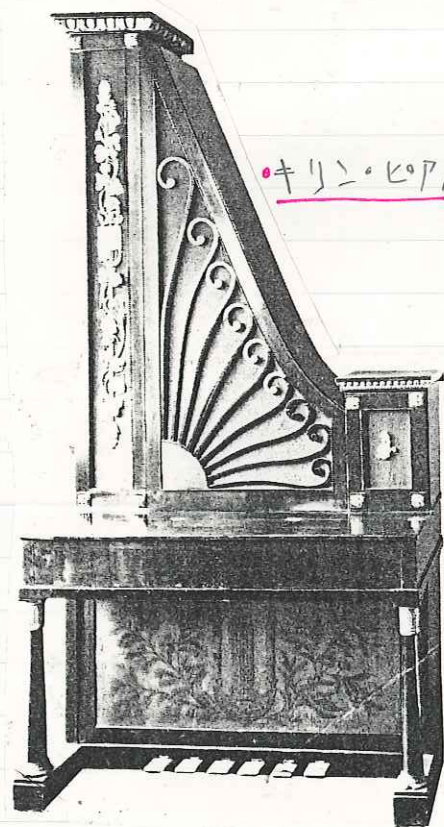
ペダル6本



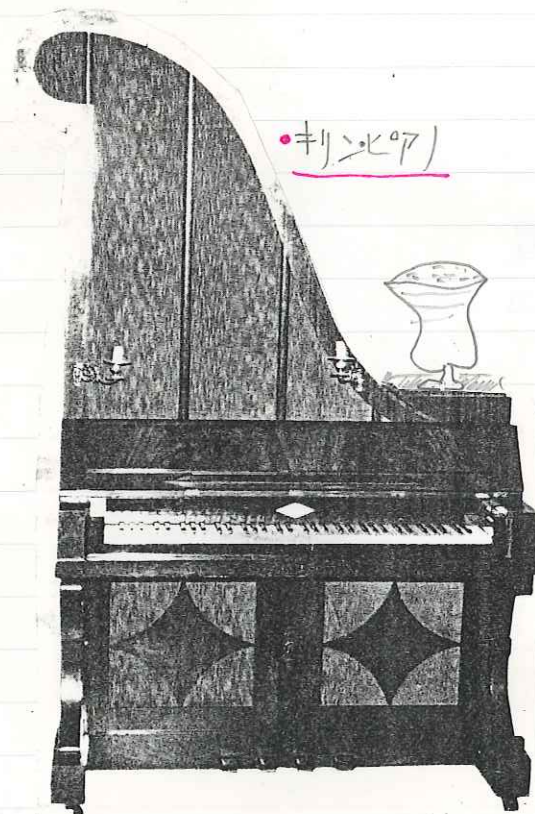
・キリン・ピアノ

・キリン・ピアノ

キリン・ピアノは、アップライト型への最初の先駆けとなったタイプである。その名は、長い首の上に、頭が乗っているような形からできたものと思われるが、それは、グランドピアノをそのまま垂直に立てたような形で、その前面に鍵盤盤を付け、その内部にアップライト型のメカニックを入れて、ハンマーは、横から打つことになる方式である。



・キリン・ピアノ



・キリン・ピアノ

1840年頃

19世紀前半、ベルリン
Johann Müller 製 音域 E1254
ペダル4本、火



● ハーフ・ピアノ

1890年頃

グー・ルツリ製

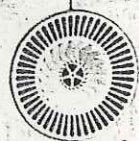
アクションは、ハンマーではなく

小さな指状の爪が引かく

イ・掛付けの撥弦メカニク

音域もオクターヴ

7オクターヴ



— ハーフ・ピアノ —

ハーフ・ピアノは、キリンピアノとは同じアイデンティティ式
のハーフで、弦を張ったハーフのフレームに鍵盤とペダルを付けた
楽器だが、発音原理はチェンバロ式の撥弦楽器で、チェ
ンバロのジャックに着いているフレクトラムの代りに小さな指が
弦を弾く方式になっている。しかし、太いピアノ線を使っているため音は、ピアノ
に近いこの楽器は、1814年にドイツ生まれのフランス人ヨハン・クリスティアン・

デーリが発明して、同じ同名の息

子と共に製造していたもので、孫にあたるクリ

スティアン・デーリは、工場をブリュッセルに

移して製造していた。この楽器は、イタリア

のルイジ・ガルダーラ及び、グーのイグ

ナーツルツなどにも受け継がれて、

1890年頃まで生産されていたもの

である。



● ハーフ・ピアノ

発音原理は

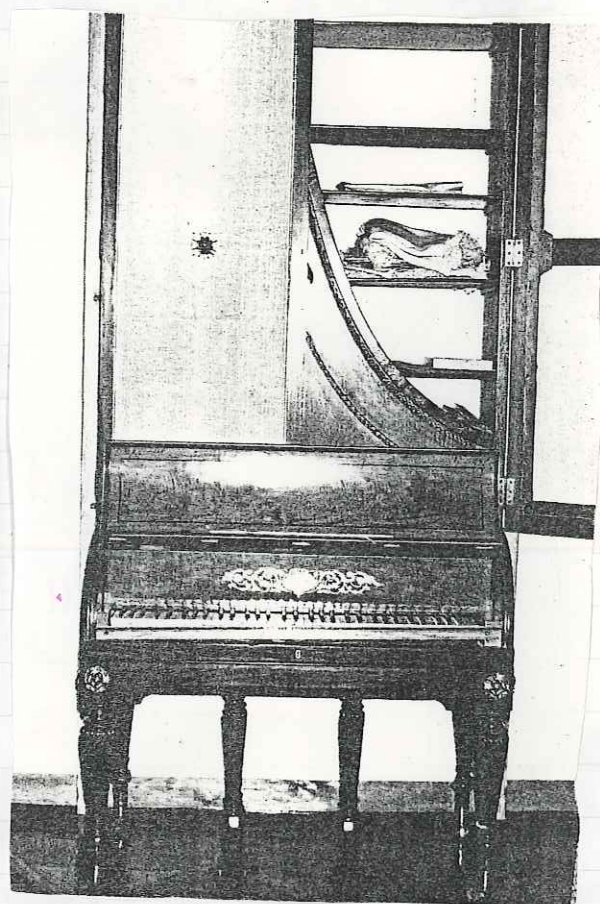
弾いて鳴らす

撥弦楽器だが

音はピアノにちかい

・たんすピアノー

たんすピアノ、このピアノの構造と中味は、クリンピアノと同じ監型のピアノだが、バス線の長さに合せて、左右同形の甲の高い、両開きの扉がついた、1見 箆笥のようなピアノ。内部右側の空いた空間は、楽譜などの書架になっているのが多い。



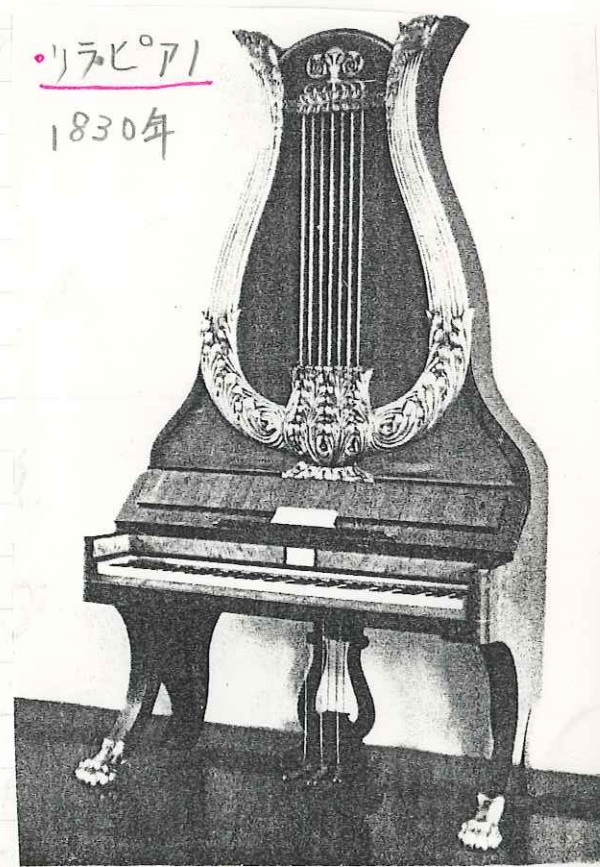
たんすピアノ →
扉を開ければたんすの形
だが、内部高音弦の
余白には棚を吊って
書棚月にも。 →

・リラピアノ

リラピアノ。外形に古代の弦楽器リラを型どって造ったピアノで、それぞれに、大同小異ながら意をこらした形で設計されている。それによって、見た目から音楽を象徴し、形も左右同形になる。19世紀始めから、中頃にかけての製品が多い。



・リラピアノ
19世紀中頃
ドイツ製



・リラピアノ
1830年



・リラ・ピアノ

1825年頃

ベルリン製



・リラ・ピアノ

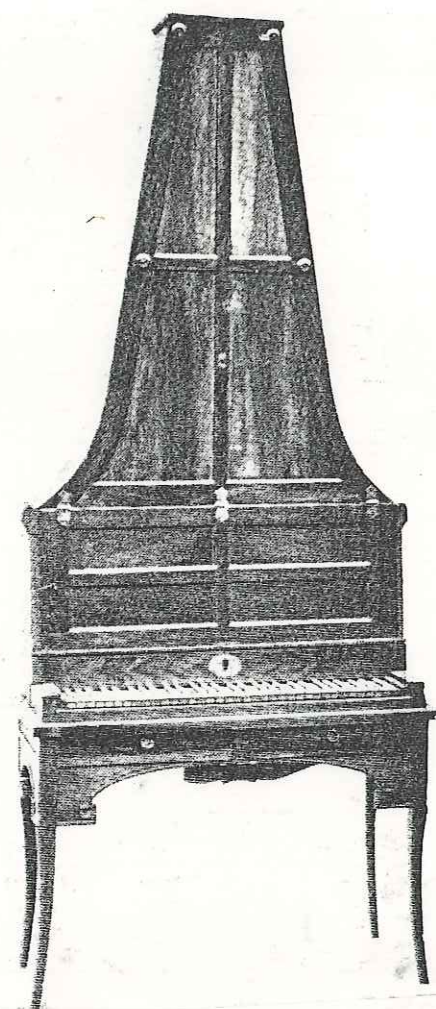
1840年

— ピラミッド・ピアノ —

ピラミッド・ピアノ、これは、

胴体が細長く、尖った三角形の

ピアノで、やはり左右同形



↑

・ピラミッド・ピアノ

1750年

両側にトルコ人形を
配置し、ヤニチャール
(トルコ音楽)用の
ペダル 6本がある。

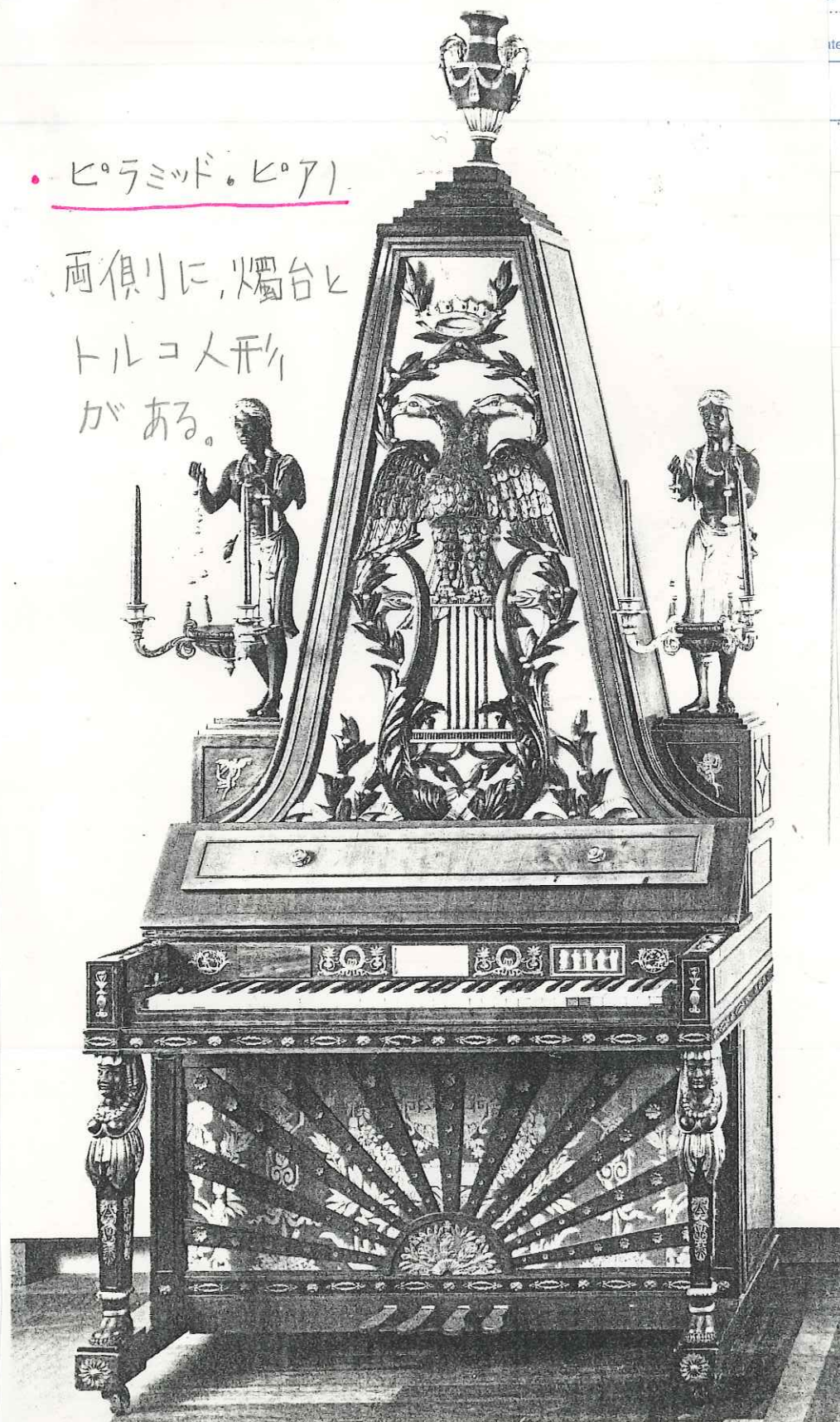
・ ピラミッド・ピアノ

1825年頃

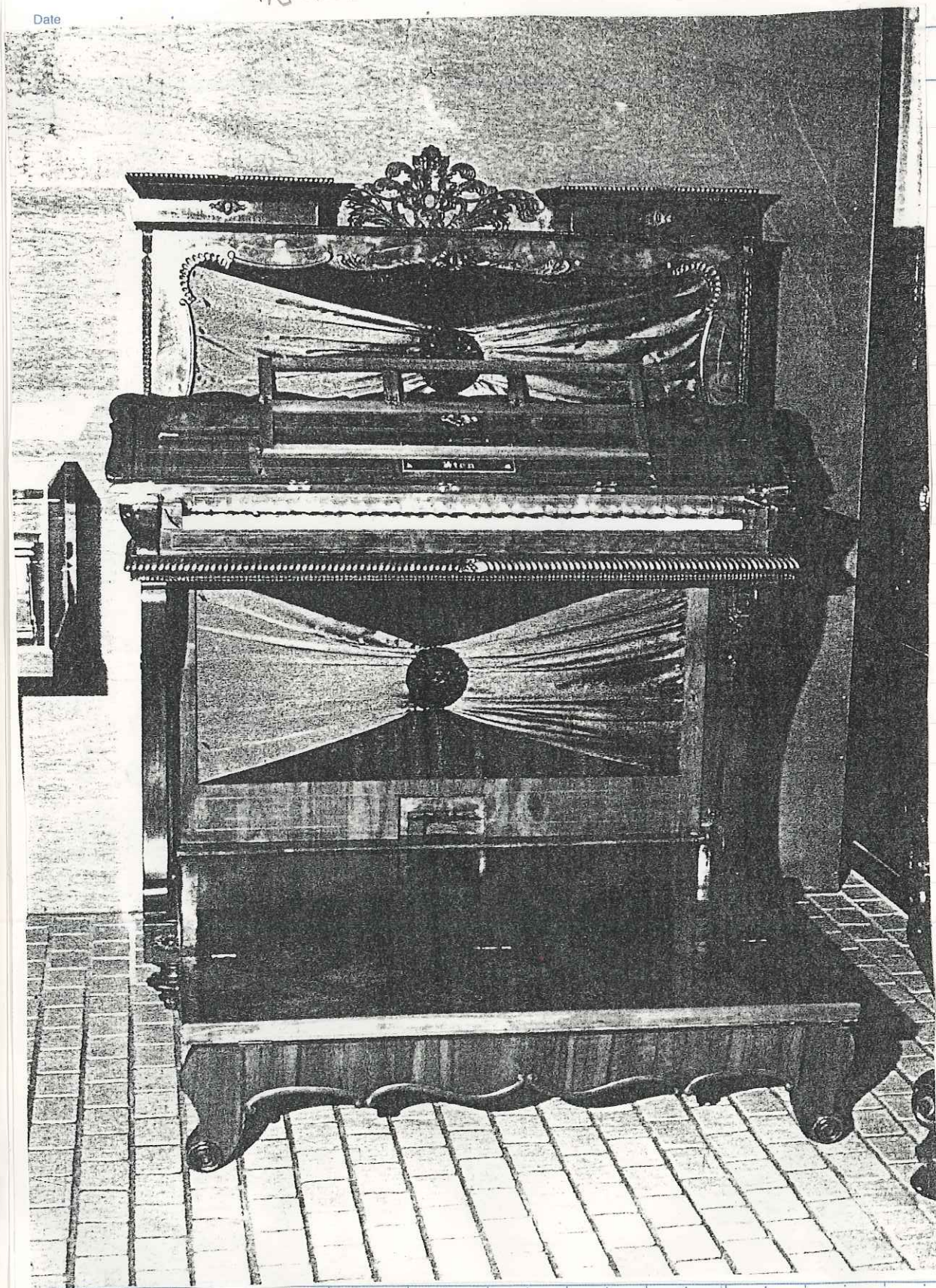


・ ピラミッド・ピアノ

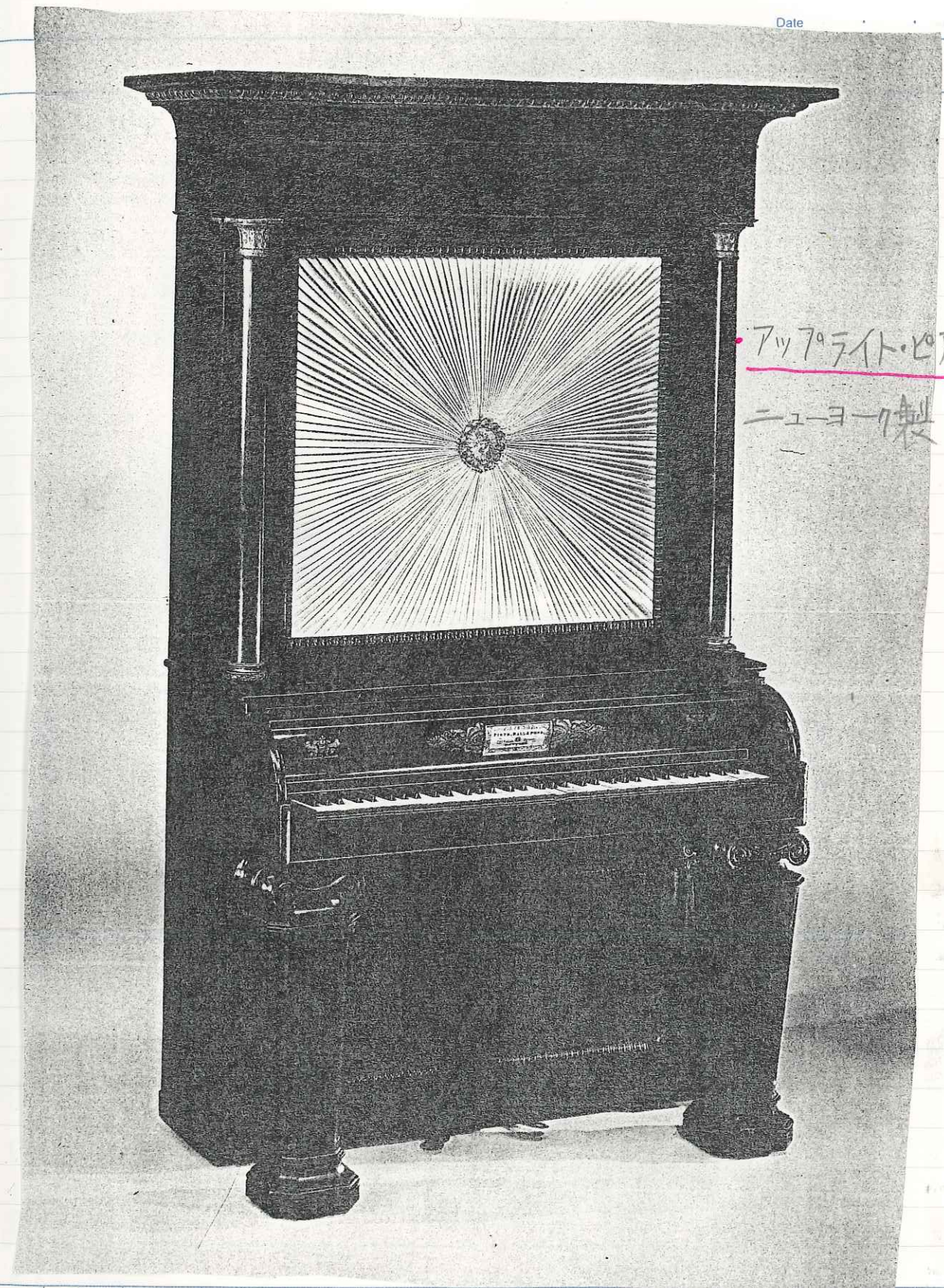
両側に、燭台と
トルコ人形
がある。



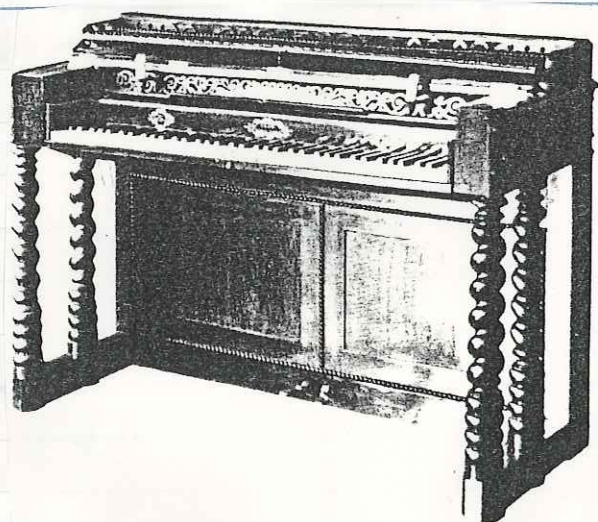
・ ショットライバー・ピアノ (アップライト型・演奏台付)
 優美な外形とえんじ色と緑がかた色の配合が美しい。



座高が高いが、前面の蓋を前に倒すと、演奏台になる。

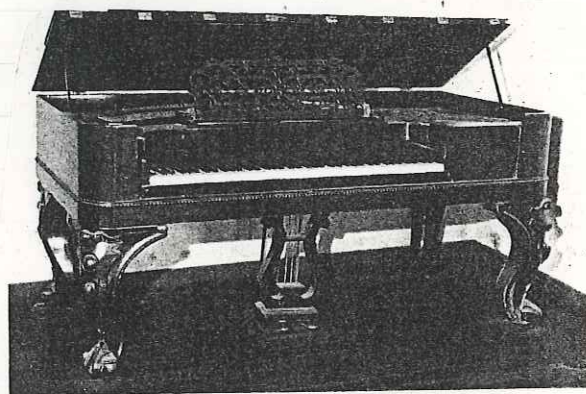


・ アップライト・ピアノ
 ニューヨーク製



→ ピアノ・コンソール

1844年



→ スクエア・ピアノ

明治初年時代に

輸入された巨大型ピアノ



→ スクエア・ピアノ

1742年

19世紀後半年間のピアノの形は、グランド型、アップライト型、スクエア型の3種が主流となっている。

— 小形ピアノ —

この時代のピアノの形の多様化は、いろいろな種類の小形ピアノにも見られる。

この種の製品は、19世紀前半の時代に多い。

→ 化粧台ピアノ

「化粧台ピアノ」は製品ごとに異なった趣向はあるが、音域は4オクターヴ程度の小形で、鍵盤の下にいくつかの引出しがついていて、蓋を開ければサイドテーブルにもなり、開ければ裏に鏡がついている。

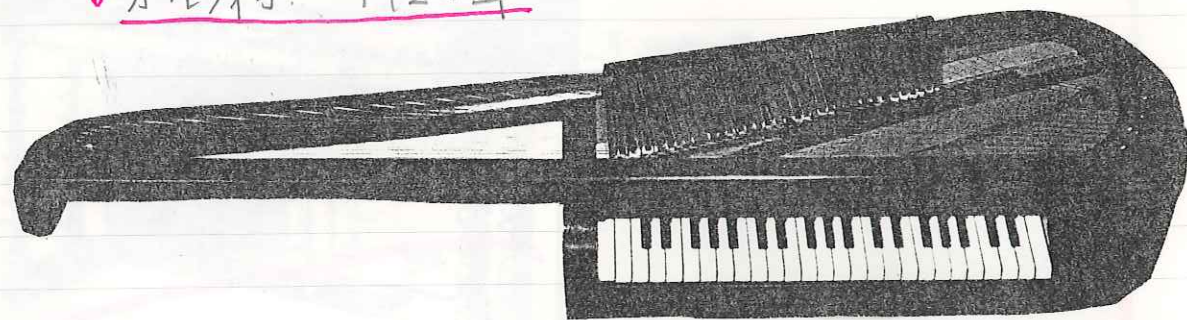


→ 化粧台ピアノ

蓋をすばサイドテーブル
蓋を開ければ鏡。

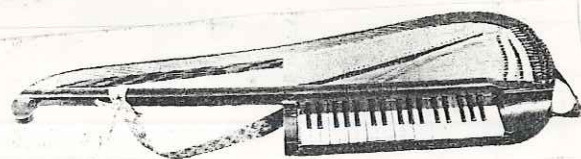
鍵盤の下、仕切りのある引出し

• オルフィカ 1920年



— オルフィカ —

- 「オルフィカ」も小型のピアノで、音域は、せいぜい3オクターヴ程度、ギターのような形をしていて、その棹に着いているバンドを肩からかけて弾くようになっている。



• オルフィカ 1795年

— 裁縫箱ピアノ —
— 文箱ピアノ —

「裁縫箱ピアノ」、「文箱ピアノ」も同じく婦女子用の小型ピアノで、音域も3オクターヴばかりの脚も付いていない卓上のピアノの一種である。その中に、針や糸、小物、またはインキッポ、ペン皿が収められるのである。

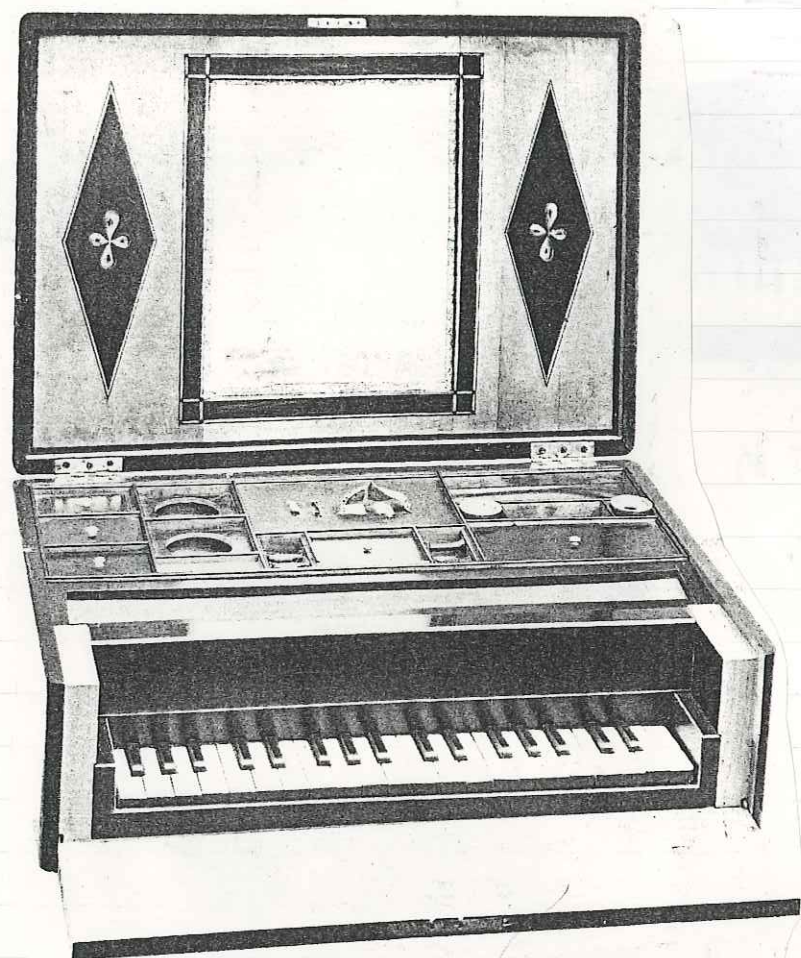


• 裁縫箱ピアノ



• 裁縫箱ピアノ

1830年



・ 針箱ピアノ

1800年頃の製品

音域3オクターヴ

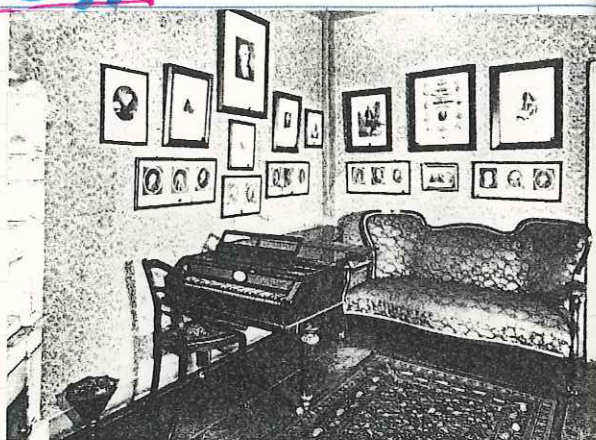


- ・ 人形ピアノ ⇒ 人形のスカートに付いた引出しに、
は組まれた小形ピアノ

2. 大作曲家が使ったピアノ

- ヨーゼフ・ハイドン (1732~1809)

が、晩年に所有していたピアノ。



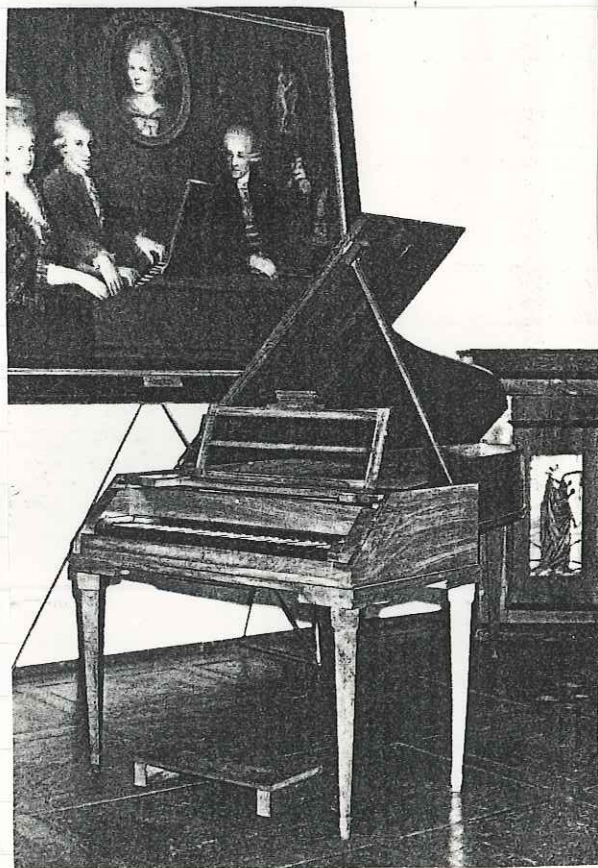
ハイドンのピアノ

- モーツァルトが、ウィーンで

終生するまで使っていた

ピアノ。

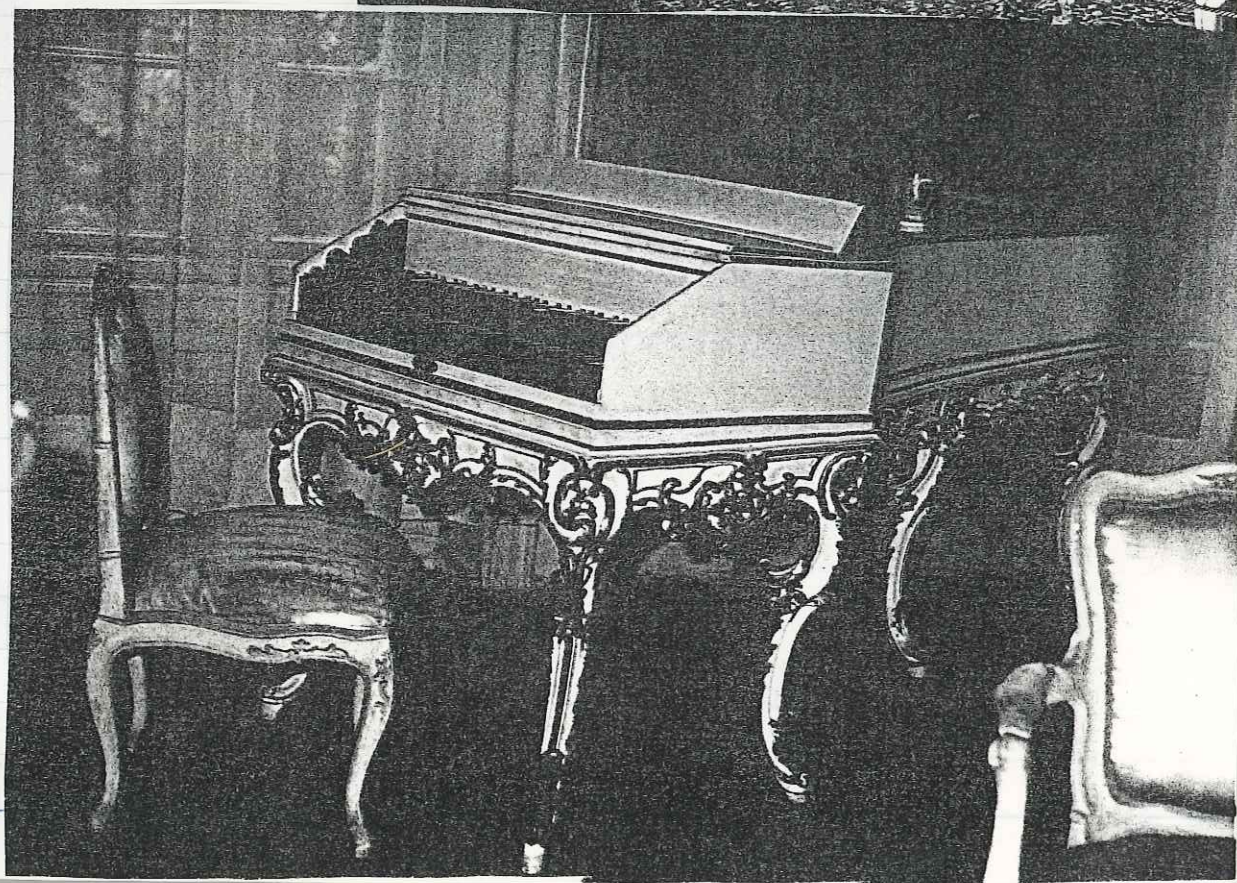
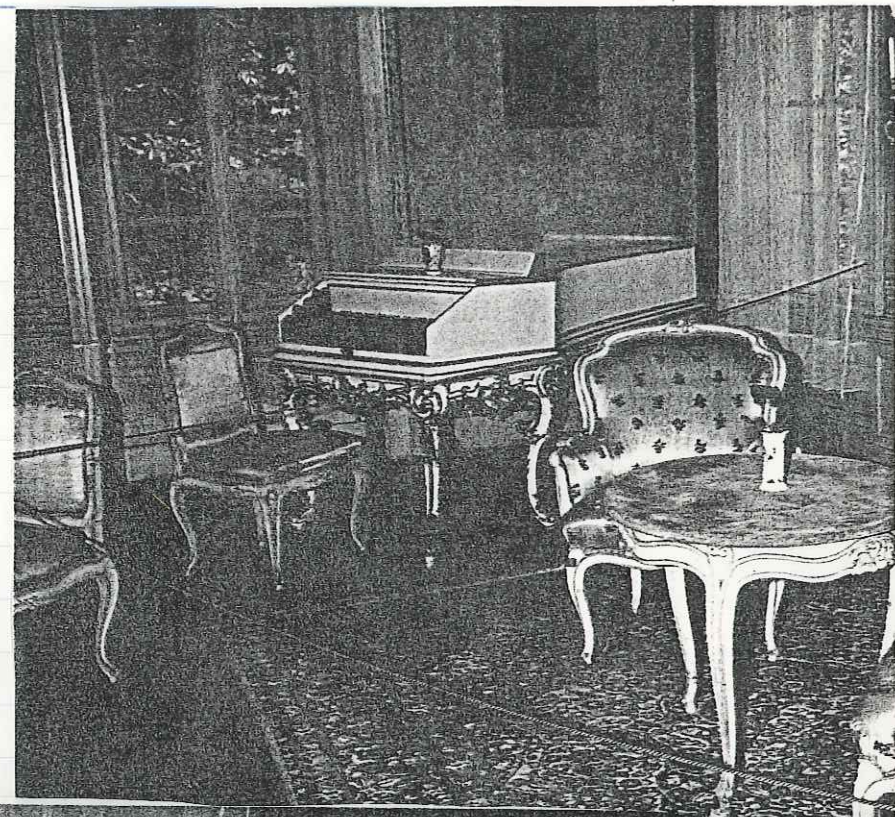
音域 5 オクターヴ



モーツァルトのピアノ

- モーツァルトが
弾いたチェンバロ。

音域 5 オクターヴ



ベートーベンの
• エーラル・ピアノ

1803年

音域 $F_1 \sim C^5$

突き上げ式のメカニク

ペダル4本



ベートーベンのピアノ

ベートーベンの
• ブロードウッド・ピアノ

1817年

音域 $C_1 \sim c^4$

6オクターヴ



ベートーベンのピアノ

ベートーベンの
• グラーフ・ピアノ

1824~25年頃

耳が聞こえなくなったベートーベンのために特殊な設計で作られたもの

音域 $C_1 \sim f^4$



ベートーベンの

(ベートーベンの最後のピアノ)

• ウェーバーのピアノ

カール・マリア・ウェーバー

が1812年に買って使っていたハンマー・クラヴィアー

1810年 音域 $F_1 \sim f^4$

ペダル4本



ウェーバーのピアノ

● シューベルトのピアノ

フランツ・シューベルトは自分のピアノを持ったことはないが、

彼が弾いたというピアノは何台

がある。これはその代表的な

1台で、1820~25年頃のワルター

製のスクエア・ピアノ。シューベルトの友人、画家アウグスト・リダー

の持物で、その家での集まりで、シューベルトがいつも弾いていたピ

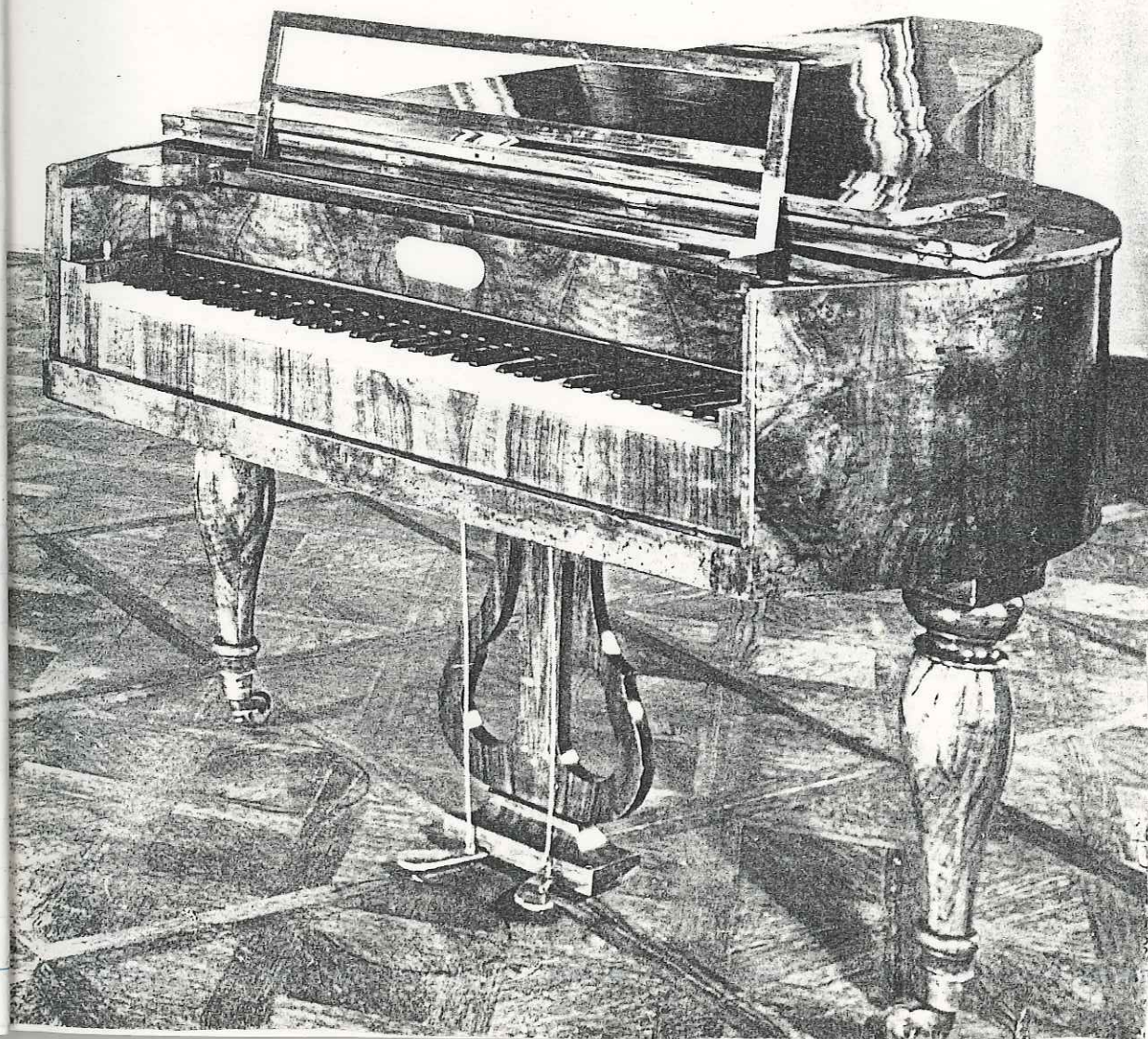
アノ。



シューベルトのピアノ

● シューベルトの ピアノ

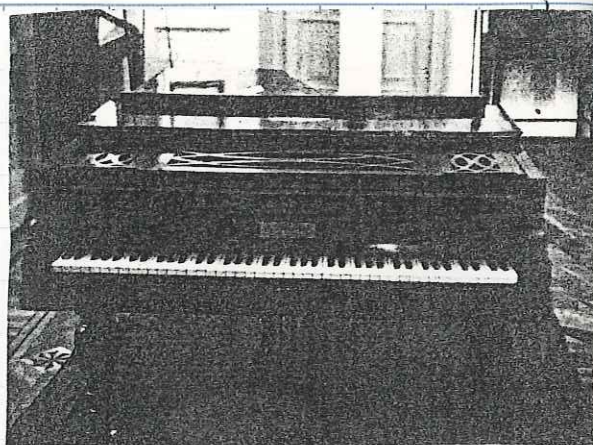
音域 F7~f3



• ショパンのピアノ

晩年に愛用したアレキス

ピアノ。音域 $C_1 \sim a^4$ →



ショパンのピアノ

• ショパンのピアノ

1832~33年

パリス、オリヴィエール＝ヘルマン製

アップライト型



• ショパンのピアノ

• シューマン夫妻のピアノ

• クララ・シューマンのピアノ →

クララが少女時代に使った

ピアノ。音域 $C_1 \sim a^4$



クララ・シューマンのピアノ

シューマンが、クララと結婚する1840年

新婚を祝って二人に贈られたピ

アノ。

(クララの死後は、ブームスが、
譲りうけて使用していた。)



シューマン夫妻のピアノ

・ リストのピアノ

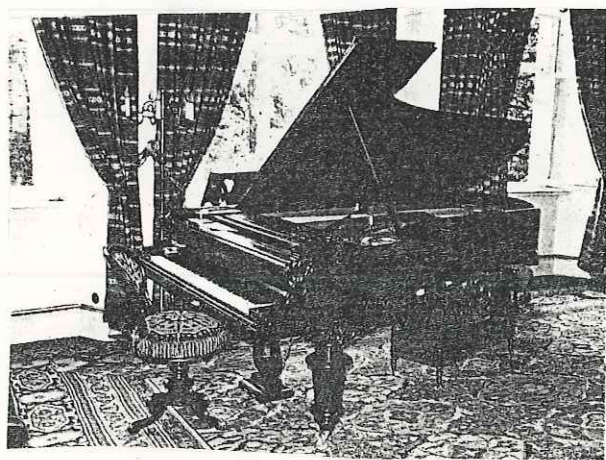
リストのサロン

ヴァイマルでのリストのサロンにお

ける日曜演奏会。ピアノは

Bechstein製であり、すべて名前まで実際の人物が

描かれている



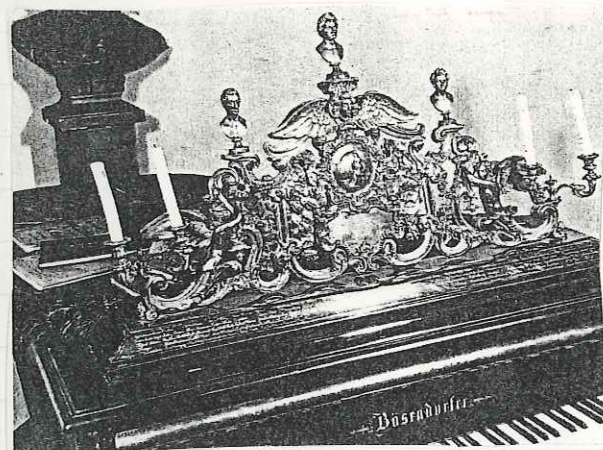
リストのピアノ

リスト協働館



リストのピアノ

リスト音楽院



リストのための特製 音面台

中央に リスト像

上部に三人の音楽家

名誉の贈物

リスト音楽院



リストの机

と
無音鍵盤

前面の引出しに3オクターヴの鍵盤

彼はこれで指を鍛え、旅行中にも携帯し、作曲もした。

• グアーグナーのピアノ

1876年



グアーグナーのピアノ



グエルティのピアノ

グエルティのピアノ

ウィーンのアントン・トマシク。

ピアノ会社製。

• スタットのピアノ

音域 7オクターヴ



スタットのピアノ

• チャイコフスキーのピアノ

音域
7オクターヴ



• ドヴォルジャークのピアノ

フリンク・シュパンゲンベルク製

アップライト型



• グリークのピアノ

スタインウェイ製

音域 7オクターヴ



グリークのピアノ



• リチャルト・シトラウスのピアノ

フーゴ・ワグネル
が使ったピアノ

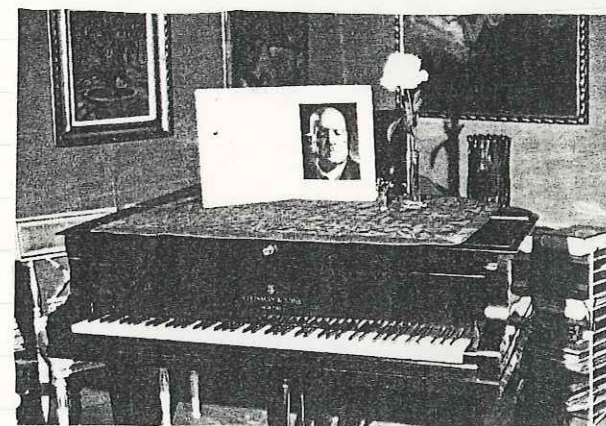
アット・ライト・ピアノ



• シベリウスのピアノ

スタインウェイ製

音域 7オクターヴ



• ラヴェルのピアノ

7オクターヴ

• カール・オルフのピアノ

音域 A1 ~ c5



NO2 1-1A

結 <

世界の大音楽家の研究

調べること

NO1 / 1 - t

1. 小学校の教科書の鑑賞曲
 - ① 小学校の鑑賞曲はどんな曲か
 - ② 調べる鑑賞曲を作曲した人、その曲について

2. 世界のピアノ歴史

- ① めずらしいピアノ
- ② 大作曲家に使ったピアノ

3. 音楽の歴史年表

＜日本音楽と西洋音楽との3カ所＞

4. 古典派音楽の作曲家

5. 世界の作曲家の出身地

3. 音楽の歴史年表 < 日本音楽と西洋音楽のちがい >

音楽の歴史年表 (古代~11世紀)

	古代	5世紀	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	11世紀
西洋史	ギリシャより ローマ帝国 時代へ。	西ローマ 滅亡				民族の 大移動 フランク王国の創		
西洋音楽史	(シュメール人の 音楽) エジプト、ギリシャを 中心とする音楽。 楽譜・理論 ギリシャ文字譜	①キリスト教 音楽に盛ん	グレゴリー 聖歌	楽器次第に精巧になる		重音楽の めばえ 楽譜の発明 (1行譜)	多声音楽 の興隆	ギドーの 階名唱法
日本音楽史	神楽		雅楽伝来	百濟・新羅 により、伎楽 が伝来	琵琶・尺八 伝来		催馬楽 朗詠 被講今様 興る	----->
日本史	縄文・弥生式 文化		仏教伝来	聖徳太子大陸 より文化を取り入 る。大化の改新	大宝律令制 定		藤原氏全盛 時代	前九年 後三年の役

音楽の歴史年表 (12～20世紀)

	12世紀	13世紀	14世紀	15世紀	16世紀	17世紀	18世紀	19世紀	20世紀
西洋史		マルコポーロ の東アジア 旅行	100年戦争 はじまる 文芸復興の めざる	東ローマ滅亡 コロンブスの アメリカ大陸 発見	ルーテル宗教 改革 コペルニクスの 地動説	ニュートン 万有引力の 法則 30年戦争	フランス革命 産業革命	南北戦争 (米)	第1次・第 2次世界 大戦
西洋音楽史	カリスト教音楽盛ん 俗楽興隆			五線譜	ルーテル聖歌集 複音楽 歌劇・聖劇 の運動 ピアノ前身楽器 生まれる	古典派の 音楽盛ん 和声学の確 定 ロマン派の音楽 リナリ		国民楽派の音楽 近代現代の音楽	
音楽史日本		琵琶楽 盛ん	能楽盛ん 早歌・田楽 起る	猿楽起る	庶民音楽盛ん (尺八三味線) 人形浄瑠璃が 生れた	義太夫節 文楽	長唄・尺八 楽盛ん	西洋音楽伝来 オルガン バイオリン 宮内省に雅楽 部を設置	西洋音楽盛ん 新日本音楽
日本史		弘明・文永 の役	建武の中興 室町幕府 起る	応仁の乱 戦国時代 始まる	キリスト教 伝来 豊臣秀吉の統一	徳川幕府 起る ポルトガル人の 来航禁止	国学起る 蘭学盛ん ペリー来る	外国船 来航 明治維新	大正・昭和 第一次・第二次 世界大戦

4, 古典派音楽の作曲家

古典派の音楽の作曲家といっても、たくさん

いるので、私がよく知っている、バッハ・ヘンデル・

ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンの五人

を調べることにした。

バッハ

(1685~1750) ドイツ



・ バッハは、ドイツのアイゼナハで、代々音楽家の家系の八人兄弟の末子として生まれた。

・ 10才 = 両親に死に別かれ、兄に引きとられた。

兄が大切にしている楽譜をこっそり写すなどして熱心に勉強した。

おもな作品として

「オルガン曲」パッサリアーレ

・ 23才から7年間

「ピアノ曲」(クラヴィア)平均律クラヴィア曲集、イタリア協

奏曲、イギリス組曲、フランス組曲、弦楽曲

無伴奏、バイオリン曲、無伴奏チェロ曲「管弦楽

曲」ブランデンブルグ協奏曲、「声楽曲」マタイ受難曲

「ミサ曲」クリスマスオラトリオ

などがある。

— ユイマールの宮廷付オルガン奏者となった。そして、オルガン

奏者として名声を高め、多数

のオルガン曲を作曲した。

(ユイマール時代)

32才 = ケーテンの宮廷楽長。有名なブランデンブルグ協奏

曲を作曲したのは、このころ。(ケーテン時代)

38才 = 当時の音楽家最高の名誉の地位であつたライプツィヒ

のトマス教会の合唱長兼楽長となつた。マタイ

受難曲はこの時代の作品。(ライプツィヒ時代)

バッハは 非常につまみ深くまじめな生活。

↓
その一生のほとんどを宗教音楽にささげている。

↓ したがって

当時流行した歌劇には手をつけていない。

作風は、ほとんど対位法的な複音楽によつているので、古典時代

の音楽でも、その後のハイドン、モーツァルトなどの和声式音

楽とは異なっている。↓ したがって

その形式の中心はフーガ。

ヘンデル

(1685~1759) ドイツ~イギリス



ヘンデルは、バッハより一ヵ月ばかりはやく、中部ドイツのハルレで生まれた。

18才 - の時、当時ドイツ第一の音楽

都市、ハンブルクの歌劇場のバイオリン奏者

やチェンバロ奏者となった。けれども、後にイタ

リア旅行して、歌劇の研究をしてその大きなえ

いきょうを受けた。

25才 - の時、ハーノーバーの宮廷楽長とな

た。けれども、その年のうちにロンドン

に渡り、歌劇を上演して大成功を

おさめ、その後4才で死ぬまでのその

おもな作品として ほとんどをイギリスで書いた。

「オラトリオ」救世主(ハレリヤコーラス)、ユダス・マツカベウス(喜劇)セルセ、

「管弦楽組曲」水上の音楽、王宮の花火「クアブサン組曲」(ピアノ)調子のおいかじ などがある。

ヘンデルの音楽は、荘重で堂々としていて、おおらかな気分 [↑] のものが多く、簡潔だけれども明快である。

こんなところでは、バッハと対象的で、二人の個性の融合によって、バッハ、ヘンデル時代を築いたといえる。

ハイドン

(1732~1809) オーストリア



南オーストリアのハンガリー国境に近い

ロウラウという村に生まれた。

6才 - の時から音楽の勉強を始めた。

8才 - の時、ロイテルというオルガニスト

に認められ、ウィーンの教会の合唱

隊に入った。

貧しいハイドンにとって、ここで勉強できるのは、とても幸せであった。

しかし、16才で、声が変わって、少年合唱ができなくなってしまった。合唱隊をやめなければならなかった。

↓
ハイドンは、街の居酒屋などでバイオリンをこいたりして、苦しい毎日を送った。

↓ 23才
23才の時、やっと教会の楽長をつとめることになった。

↓
そして、次第に世の中に認められ、ウィーンの貴族たちの間にも出入りするようになった。

↓ 1761年
百万長者の貴族 エステルハーツ公におかえられ、ハイドンは、生涯を決定する幸せを得た。

↓ 1791年と1794年
1791年と1794年の2回にわたって、イギリスをほう問し、オックスフォード大学から、音楽博士の称号をもらった。

ハイドンは、まじめな人物であつたが、一面あいさともあって、人から「パパ・ハイドン」とよばれ、親しまれていた。

↓
その気質はハイドンの音楽の中にもよく現れている。

また、リナタを研究し、100曲以上の交響曲を作り、完成に導いたことから、「リナタの父」あるいは「交響曲の父」といわれている。

↓
ハイドンの音楽は、よくつりあいよく、形が整い、明るくユーモアのある曲が多く、1000曲以上の作品を残している。

おもな作品として、「交響曲」軍隊告別、「弦楽四重奏曲」ひばり、セレーデ「オラトリオ」天地創造、四季 などがある。

モーツァルト



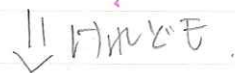
(1756~1791) オーストリア

「音楽の神童」といわれるモーツァルトは、
アルプスのふもと、ザルツブルグに
生まれた。

3才でクラヴィアを弾き、5才で作曲を始め、6才で
演奏旅行に行った。10才のころには、もう一流の
演奏家として活やくし、15才の時には音楽のあらゆる
形式の作品を発表していった。



こうして少年モーツァルトは、はなばなしくデビュー
した。



モーツァルトにも不幸がやってきた。

かれのつかえていた大司教父との間が、いっもうまくい
かす。ついには、その大司教のえん助をすて、ウィーン

にいき。自治の道をたてなければならなかった。

モーツァルトは、普通にくらしていけば、生活ができない
ことはなかったが、計算に弱く、金銭にもだら
しかなかった。

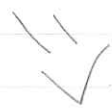
おまけに毒のウェーバーは無知で浪費家とまでいえるから、
たまたものではなかった。



しかし、モーツァルトはそれにも負けず日夜働きつづけ、
美しい曲をたくさん作っていた。そして、30才をすぎると、モ
ーツァルトの音楽は、一層深みを加えていった。



このようにして、生まれつき病弱だったモーツァルトはたちまち
健康を害し、死を早めるようになってしまった。



1791年7月、灰色のマントをつけた、見知らぬ男が
訪ねてきて、^{レクイエム}鎮魂曲（死者のための曲）の作曲をいらい
していった。

モーリャルトは、その男を地獄の使いのものだと思い
こんでいた。

そして、日夜恐ろしい幻想にとりつかれたままかつて、
わずか35才の短命でこの世を去った。

この短い生涯の間に、美しい曲を1000曲近く残した。
おもな作品として、「交響曲、3番、40番、41番（ジュビラー）」

「歌劇」魔笛、ドンジョバンニ、

「その他」協奏曲、室内楽、ピアノソナタ、

バイオリンリナタ、レクイエム などがある。

ベートーベン（1770～1827）ドイツ



ベートーベンは、ライン河のほとり
のボンで生まれた。

音楽の才能は幼時から、かなりのものだった。

しかし父は、ベートーベンを、第二のモーツァルトにしたいが、
天才音楽家にしようと悲常に無理なほど、
勉強をさせたので、かれはそのため、一時音楽が
きらいになったほどである。

しかし、9才の時には、もはや父から学ぶものはなくな
った。

17才の時、モーツァルトに会ったが、その時モーツァル
トは、「かれに注意なさい。今に必ず、世界をおど
かす人になるだろう」と言ったということである。

20才の時、ハイドンに認められ、かれに~~ハイドン~~勉強のため
に、22才で故郷を後にウィーンに上り、ここを永住の地
とするようになった。

↓

25才頃から音楽家として最も大切な耳が悪くなり、
32才の時、ついに絶望して、ハイリゲンシュタットで、
遺書を書き、自殺まっしょうとした。

↓

しかし、この苦痛の告白は、再びかれに芸術欲
をかきたて、絶望の中から立ちあがって、運命とたた
かう強い意志と、苦闘する自からの姿を音楽に
映しだし、人々の心に、生命のともしいをか
ざすようになったのである。

ベートーベンは、音で物を考えた最初の作曲家であ
るといってよい。形式を尊重しながらも、その中に、
人間の精神を大胆に表現し、運命に屈せぬ人間の
姿を贅えている。

おもな作品として、「交響曲」英雄、運命、田園、第九(合

唱付)、「ピアノソナタ」悲そう、月光、

熱情、「その他」ピアノ協奏曲(皇帝)

バイオリン協奏曲ニ長調などがある。

5 世界の作曲家の出身地

ドイツ

バッハ (1685~1750)

ヘンデル (1685~1759)

ベートーベン (1770~1826)

メンデルスゾーン (1809~1847)

シューマン (1810~1856)

ワーグナー (1813~1883)

ブラームス (1838~1899)

マーラー (1860~1911)

ヴォルフ (1860~1903)

リヒャルト・シュトラウス (1864~1949)

オーストリア

ハイドン (1732~1809)

モーツァルト (1756~1791)

シュベルト (1797~1828)

ヨハン・シュトラウス (1825~1899)

シェーンベルグ (1874~1951)

フランス

ベルリオーズ (1803~1869)

サン・サーンス (1835~1921)

ビゼー (1838~1875)

ドビュッシー (1862~1918)

ラベル (1875~1937)

レスピギ (1879~1936)

世阿弥元清(1363~1443)

八橋模校 (1614~1685).

竹本義太夫 (1651~1714.)

近松門左衛門 (1653 ~ 1724)

豊沢 団平 (1827~1898)

滝廉太郎 (1879~1903)

山田耕作 (1886~1965)

中山晋平 (1887~1952)

宮城道雄 (1894~1956)

~~本日(日)月(日)年(日)月(日)日(日)月(日)日(日)月(日)日(日)~~

日本
日本
日本
日本
日本
日本
日本
日本
日本
日本

7 研究のまとめ

調べること①の小学校の教科書の鑑賞曲の①小学校
の鑑賞曲は、どんな曲かでわかったことは、どの学年も鑑
賞曲は6曲であることです。②の調べる鑑賞曲を作曲した
人とその曲についてでは、その曲を聞いてみて、どの曲もすばら
い曲だと思い、その曲の感じや、その曲の作曲家のことも
よくわかりました。

2の世界のピアノの歴史の①めずらしいピアノは、
今まで聞いたことのない名前や、見たことのないおもしろい形のピアノなどがわかって、とても楽しかったです。②の世界の作曲家が使ったピアノは、世界の作曲家が使ったピアノが、どんな形で、何オクターヴかなどがわかり、現在に近い年代になるほど、鍵盤の数が増えて大きなピアノになっている、ということも合わせてわかりました。

3. の音楽の歴史年表 (日本音楽と西洋音楽とのちがい)
を調べたときには、日本に西洋音楽が伝わったのは、20世

紀ですつとあとのことだったので、おどろきました。それに、西洋では、古代から楽譜・理論・ギリシャ文字譜などもあったのには、とてもおどろきました。

4の古典派の音楽の作曲家については、その作曲家のおいたちや、おもな作品もわかったので、とてもためになりました。それと、調べた5人の作曲家は、どの人も、小さい子供のころから音楽が好きで、いっしょけんめい楽器をひいたりして勉強していることがわかったので、すばらしいなあと感じました。

5の世界の作曲家の出身地では、やはり西洋のほうに作曲家が多いということがわかりました。とくに、ドイツには、作曲家がたくさんいて、昔から、音楽がさかえていたんだということもわかりました。

全体として、小学校の鑑賞曲は、どれもすばらしい

曲ばかりだったので、来年中学校に入って、どんな鑑賞曲があるか、興味深いです。それと、この研究では、おもに、古典派の音楽の作曲家のことしか調べなかったのですが、今度は、ロマン派音楽の作曲家、近現代派音楽の作曲家と調べていきたいです。それと、世界の作曲家の出身地で、日本の作曲家を調べたけれども、滝廉太郎、山田耕作、中山晋平、宮城道雄の4人しか、どんな曲を作曲したか、ということがわからなかったので、日本の音楽の歴史についても、くわしく調べてみたいのです。最後に、私はピアノを習ったので、小学校最後の敬学会研究で、音楽をテーマに決めて、大変勉強になって、良かったと思います。しょうらい外国(ヨーロッパ)に旅行しながら、大作曲家がすばらしい名曲を作曲した国で音楽の勉強をしたいです。^{多い}

8) 参考にした本と資料

- 本
- ① 世界の音楽 小学館
 - ② 学習図鑑音楽百科 学習研究社
 - ③ 音楽の歴史 音楽教育社
 - ④ 名曲のかん賞テーマ集 音楽教育社
 - ⑤ 音楽中辞典 音楽え友社
 - ⑥ 音楽用語辞典 日音
 - ⑦ ピアノの歴史 音楽え友社
 - ⑧ 小学校の教科書1年～6年

資料

- ① 国立大学音楽博物館の資料
- ② 武蔵野大学音楽資料館の資料
- ③ 浜松カワイ工場でもらったパンフレット

9) お世話になった方々

大沼先生, 大場先生,
ピアノの先生, 母

10)

研究の反省

この研究のテーマが、なかなか決まらなくて、
こまっていたら、大沼先生から「今年は、小学校最後
なので、1年〜6年までの音楽の教科書の鑑賞曲と作曲
家のつながりについて調べてみては……」と言われて、
それを調べました。それを調べている内に、いろいろ
なことをたくさん調べたくなって、いろいろなことを調べたので、
最初のテーマとは変わって、「世界の大音楽家の研究」と
いうテーマになってしまいました。

テーマは変わってしまったけれども、この研究で、いろい
ろなことがたくさんわかったので、この研究をして、良かった
なと思いました。